

OPCTV（オプション倶楽部 TV）

2025 年 11 月「政治経済イベント分析」補足 Q&A

OPCTV の政治経済イベント分析では、主に相場の変動やグレイ・リノの発動に大きな刺激を与えそうなイベント（出来事）要因について確認しています。

日経平均は 10 月“も”続伸、29 日現在、51000 円台に達しました。売坊先生は日経 225 先物 12 月限も買い方が完全主導のテクニカルな展開となっており、少なくとも同限月の SQ 日（最終決済日）までは底堅い展開になりやすいとみています（すみません、前日収録のため 51000CALL を狙う動きが、すでに実現してしまいました……）。

ただ、日経平均の予想 EPS（1 株当たり利益≒業績）が 9 月から堅調に上昇しているとはいえ、同 PER（株価収益率≒成長性）は 19 倍を超え、かなり高く評価されているようにみえます。また、青天井相場をけん引している AI 関連株のひとつ、ソフトバンクグループ(9984) は 4 月安値から 4 倍を超える暴騰状態です。

そのようななか先生が注目しているのが「金」です。目下、大きく値を下げていますが、それを“調整”とみるのであれば、ボラティリティの上昇に乗じた関連銘柄の PUT（所定の価格で売る権利）の売りが考えられます。権利を行使されようとされまいと“構わない”戦略に「機会が見出せる」とのことです。

<資料 P2>

——10 月の日経平均は上旬に 44000 円台から 48000 円台に暴騰し、中旬の調整を経て、下旬には 50000 円台に達する上昇となりました。日経平均は荒れた動きながら強基調を持続しているようにみえます。先生は 10 月の日経平均をどのようにみていますか？

ファンダメンタルというよりもテクニカルな部分による動きが大きいと考えています。先物・CALL 売りの踏み上げが続いている状態です。日経 225 先物・OP 市場の特性ですので、12 月限 SQ 日（最終決済日）の 12 月 12 日まで完全に買い方有利の展開が続くでしょう。

——高市首相のアベノミクス（積極財政・金融緩和）再開を予期している向きもあるのでしょうか？

期待をしている投資家はいると思います。ただ、この側面を狙って買い方が煽っている面もあるでしょう。

——28日の日米首脳会談による成果を予想している向きもあったのでしょうか？

材料に期待している向きはあるでしょう。

——日経 225 ラージ先物 12 月限の価格別出来高分布をどのようにみていますか？

売り方がかなり傷んでいる状態だとみています。

——先物 12 月限の 46000 円以下での売り玉は、すでにかなり引かされていると考えられるのでしょうか？

難平で積み上げている投資家もいると考えられます。その売り方は、かなり追い込まれた状態となっているでしょう。

——日経 225OP11 月限の建玉状況をどのようにみていますか？

10 月 27 日現在、50000CALL で 7652 枚が建っています。この売り方がリスク回避のため多少なりとも先物買いを余儀なくされているでしょう。これによって上昇スパイラルが加速し、日経平均が 50500 円程度にまで上伸したと考えています。

51000CALL でも 7221 枚が建っています。ここでの売り方の買い戻しを狙った上への仕掛けを想定しておくべきでしょう。

建玉	出来高	売気配	買気配	I V	前日比	コール	行使価格
110	0	1520	1495				49875
7652	2	1440	1415	25.51	-35	1410 ↓	50000
66	0	1365	1340				50125
293	0	1290	1270				50250
50	0	1220	1200				50375
1294	0	1150	1135				50500
248	0	1090	1065				50625
19	0	1025	1005				50750
25	1	965	950	24.73	+420	965 ↑	50875
7221	9	910	890	24.62	-30	880 ↓	51000
43	1	855	835	26.64	+70	870 ↑	51125
128	0	800	785				51250
25	1	750	735	24.73	+365	785 ↑	51375
932	6	705	690	24.69	-5	700 ↓	51500
2624	7	540	530	24.60	-5	535 ↓	52000

出所) 楽天証券『MARKETSPEED』10月27日17時10分

——チャート的に日経平均は青天井のようにみえます。先生は現時点で日経平均に、どのような見通しをもっていますか？

値幅よりも時間の関数でしょう。12月限SQまでは資金量にモノをいわせた力業による上昇を考えておく必要があるでしょう。

——今週から11月中旬までが9月期決算発表のヤマ場だと思います。日経平均の予想EPS（1株当たり利益≒業績）が9月から上昇基調にあるのは、好業績を織り込んできているのでしょうか？

想定以上に業績予想が堅調となっています。これも日経平均が強い要因でしょう。

——日経平均の予想PER（株価収益率≒成長性）が19倍近くにまで上昇しています。“異常値”に思えますが、これをあえて正当化するとすれば、どのようなことが考えられるのでしょうか？

円安がさらに進行する状態です。その結果、海外売上高の上昇で見た目の業績は上がるようになります。

——売坊流日経 225CALL 売り戦略では、今年4月以降の強気相場にもかかわらず、証拠金にかなりの余裕を持たせ、慎重に建玉をしていくことで結果を残せてきたように思います。しかし、11月限については手を出しにくいのではないのでしょうか？

会員様には「ターゲットのお告げ」や「ボラのお告げ」を紹介しており、今回も良いタイミングで警報を出してくれました。また、かねてから状況を鑑みて保守的な建玉戦術も紹介しています。

——10月の米ドル円は上方にブレイクアウトしてから、いったんは調整が入るも、再度上昇（円安）となっています。チャート的には力強さがみられるのですが、先生は現時点で米ドル円に、どのような見通しを持っていますか？

日本円は中期的に弱含むと考えています。

<資料 P3>

——米国ではツナギ予算否決による政府機関の一部閉鎖が10月頭から続いており、いくつか主要な経済指標が発表されないままです。しかし、米国株は堅調で、10年物米国債利回り（長期金利）は一時4%を割れました。政府が異常事態にあり、トランプ関税の影響が不明ななか、市場に動揺があるようにみえないのは、なぜだと思えますか？

カネ余りの部分もあると思います。金にも資金が流れていますが米ドルにも根強いニーズがあるということです。

——現在、日経平均をけん引しているソフトバンクグループ（9984）とアドバンテスト（6857）の決算発表日が、それぞれ11月11日、10月28日に予定されています。11月限のSQ日（最終決済日）が14日にありますが、それに向けてこちらが“イベント”となる可能性はあると思えますか？

上に仕掛ける材料となる可能性は排除しません。

——ソフトバンクグループがここまで高く評価されているのは「AIファンド」としての期待からでしょうか？

ご指摘のとおりでしょう。レバレッジの利いているファンドということになるでしょう。

——10月30日に米中首脳会談が予定されています。先生は“イベント”として注目していますか？

イベントとして注意しておく必要があるでしょう。

——10月30日の日銀決定会合ではドル円が150円台に上昇しているにもかかわらず、政策金利（0.5%）の据え置き観測が強まっているようにみえます。先生は、どのような点に注目していますか？

高市首相への配慮から今回の利上げはなさそうです。

——10月29日のFOMC（米連邦公開市場委員会）では政策金利（4.00～4.25%）の引き下げが確実視されています。もし「米国利下げ—“日本利上げ”」となった場合、米ドル円に何かしらの影響が考えられるでしょうか？

可能性は低いでしょうが、その場合は円高が多少進むかもしれません。しかし、140円を割れることはないでしょうし、円安の大きな流れに変わりはないでしょう。

——11月27日に米国では感謝祭があり、そこからクリスマスまでホリデーシーズンとなります。日本株上昇の立役者に海外投資家もいると思うのですが、その前にポジション整理が起こることもあり得るのでしょうか？

12月限SQまでは稼ぎたいと考える海外投資家もいるでしょう。

＜資料 P4＞

——政府機関の一部閉鎖で24日に遅れて発表された米国の9月分CPI（消費者物価指数）は前年比3.0%上昇でした。トランプ関税の影響か、インフレが少しずつ加速しているようにみえるのですが、市場からは問題視されなかったようにみえます。先生は、どう思いますか？

年末商戦に向けての価格転嫁があるかがポイントでしょう。

——10月24日現在、米クリーブランド連銀は10月分のCPIを前年比2.97%上昇で予測しています。先生は、この予測について、どう思いますか？

9月分CPIは例外的に発表されましたが、10月分CPIは発表されない可能性があります。不確実性が高い状態です。

——米国の大手先物取引所グループCMEが上場しているFFレート先物から逆算した市場予想『FEDウォッチ』で、先生は何に注目していますか？

市場参加者の利下げ期待が楽観的すぎないかみています。

——ここでFOMC参加者の各年末時点での政策金利見通しを集計した『ドットチャート』の9月更新分を掲載したのは、なぜでしょうか？

市場参加者とFRBとの見通しの差をみるためです。

<資料 P5>

——米国の財政収支を掲載したのは、なぜでしょうか？

財政悪化が加速していることを示すためです。

——米国の財政収支が急激に悪化したのは経済ショック時の積極財政が原因でしょうか？

その面もあると思います。

——コロナショック時に政府がバラまいたおカネが、いまだに米国の株価を支えていると考えられるのでしょうか？

ご指摘のとおりです。株高もあり、富裕層の資産は、かなり大きく増えています。

＜資料 P6＞

——NY 金先物は 21 日に約 300 ドル下げる暴落となり、現在は 1 トロイオンス（約 31.1 グラム）4000 ドル近辺で推移しています。今回、NY 金先物とその HV（ヒストリカル・ボラティリティ）を掲載したのは、なぜでしょうか？

先週は過去最大幅の金価格の下落がありましたが、中期的には堅調だと考えています。それは紙の通貨・資産からの逃避が続くと考えているからです。希少性のある金（ゴールド）へのニーズはなくならないでしょう。

いつ米国の財政に焦点が集まってくるかがポイントでしょう。

なお、金下落の結果、ボラティリティが上がったことで、個人的には産金株などの PUT 売り戦略がとても魅力的にみえています。

ただ、まだ下げている銘柄もありますが、すでに戻り歩調となっている銘柄もあります。

【免責事項】

本テキストの図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。

本テキストに掲載された情報・図表・資料は、あくまで情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。

本テキストは一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。

本テキストに基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて筆者およびバンローリング社は一切の責任を負いません。

本テキストに記載された URL などは予告なく変更される場合があります。

本テキストに記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。